

一〇〇%やり切ったと言えるぐらい詰めきった

語り手 江口匠実（高校十三期生 銀行員） 聞き手 今村聡

*

今の生活について

―銀行員の仕事で難しいなと感じることはあるんですか？

四月から銀行員として働いているんですけど、実際めちゃくちゃ仕事ができるというわけではなくて、難しいかというと、前振り段階として二ヶ月間研修がありまして、その期間に自分自身が銀行員としてやることとかを基礎の基礎のところから教えていただけるんですね。例えばビジネスマナーとか経済の基本知識とかっていうのを教えてもらいます。人にお金を貸すっていうことは、それだけ自分も知識を入れていかないといけないということを改めて実感しているの、学生の時より勉強してるなっと感じますね。そこが一番大変かな。

―そのときに立守の授業であつたり、部活での学びであつたり何か生かされているなと感じることはありますか？

はっきり言うとあんまり無くて。僕今のカリキュラムとかってわからないですけど、立守でだけっていうと、あんまりお金の勉強をした覚えがないなと感じて、ほんまに大学行ってから経営学部やったんですけど、そこでこれ学びたいと思って学ぶもんじゃないですか、あんま高校でお金の話ってしないですよ。

―そうですね。あんまりしないですね。強いていうなら政治・経済の授業ですね。

ただ、高校時代に身につけたというか学んだ誰かと話すとかコミュニケーションとかっていう面で言うと、そこで培った力じゃないかなって

思います。

*

学生時代

―高校時代好きだった授業とかってありましたか。僕は探究が好きなんですけど。

僕も探究。文社探究とかやっててんだけど、そんな時守山商工会のかたと広報誌とか作って、あの、すごい楽しかった。普段話すことのない大人とお話してきたし、それが形になったのがすごいうれしくて頑張ってたというかモチベーション持ってやってましたね。新野さんっていう人とやってましたね。新野さんにはたくさん助けていただきました。

―僕は探究あんまり大人とこれをするっていうことができてないんですけど。

誰かいい大人を捕まえたらマジで進むで。

―探究以外にも好きだった授業とかってありましたか？

授業か。そうやなあ。全般的に好きやったからなあ。嫌いな科目とかなかったけど、僕はグローバルコースやったんで英語の授業がすごく楽しくて、エッセイを書くとかも今もある？

―はい。あります。今だったらエッセイ書くのと授業を行うっていうのを英語の授業では行ってます。

内容は忘れたけど、エッセイが本当に楽しかったです。

―海外研修はどうでしたか？

コロナでなくてちようどあるかないかのタイミングの時で行く前日になくなりました。ボストンに行く予定やったんがなくなりましたね。

―体育祭とか文化祭などの行事で印象に残っているものとかありますか。文化祭の劇、高校三年生の時は外部のお客さんがコロナの影響で入れ

へん状況になつて、しかも市民ホールの劇とかさ、すごいざっくりしたものになるけど、教室劇とかって軽い気持ちで来れるやん。そこで高校三年生の時はツナグっていう劇を頑張った印象があります。

―学校内で好きだった場所とかってありましたか？僕はご飯がたくさん食べれるんでカフェテリアが好きなんですけど

それでいうとアイリスかな。毎日練習してたし、すごい好きやった。確か今めっちゃ綺麗よな。

―四月ぐらいにアイリスの改修工事が終わってめっちゃ綺麗になりました。

僕らの時めっちゃボロボロやった。

―普段の学校生活で印象的だったことってありますか。僕の場合は授業担当の先生が授業を忘れてて授業が残り二十分ぐらいで始まるみたいなことがあるんですけど。

僕らもそういう時ありましたね。ある先生が休んでて授業こないとか。忘れてたのかな。でも一番印象に残ってるのがコロナの話ばっかりになつてしまふねんけど、コロナでマスクしてて、ほんまに高校最後の一年間ほんまに距離を感じた。

―僕も公立中学に上がるときにちょうどコロナで、ずっと出席番号ごとに時差登校してて、やっとクラス全員会えたのが七月でした。コロナはほんまにいい思い出と悪い思い出がありますね。

あれはあれで楽しかったからよかった。家族との時間が取れましたしね。

―コロナの時って特別何かしましたか？

特別何かをしたわけではないけど、部活で家帰るの遅かったけど、家族が家におるから話す時間は単純に増えたかな

―高校時代に何かチャレンジしたことってありますか？

探究の授業で守山の活性化のようなものをやりたいって思つて、普段探究の授業とかで力を入れてやるタイプじゃなかったんですけど、力を入れてやっていました。地方商工会の方に行つてみたらって田辺先生に言われて、アポ取つて行つてみたら、地元やしちよつとでもよくできそうやなつて思つたのが、力を入れて頑張った要因かなって思います。

―毎日の学校生活で楽しみにしていたことはなんですか？

部活、アメフトの時間かな。一番楽しみやったし、毎日部活早くしたいなあつて思つてました。

―確か中学の途中からアメフトを始めたんですよね？始めたきっかけは何だったんですか？

押淵先生という中学のアメフト部の先生やねんけど、元々陸上部入つてて練習してる時にふとアメフト部入部する？っていう話をされてその時ちよつと陸上部、なんかちやうかなあつていうふうに思つてたから新しいこと初めてみようと思つてアメフトを始めました。

―新しく始めるといこともあり不安もあつたと思うんですけど、その時は新しく始めることについてどのように考えていましたか？

新しく始めることなので知らんこともそうやし、力をつけないといけないことも初めてで、それが僕は楽しかったですね。しかも元々アメフト部の友達が多かったので、そいつらと一緒にできることも嬉しかったし、毎日が楽しくて、気合が入つてたみたいな毎日でしたね。不安というよりは早くやらなつて思つていました。

―当時チームメイトとはどのようなことを話したんですか？

高2の時は副キャプテンで、高3の時はキャプテンで、人の前に立つて話すということがすごく多くて、目標を日本一というところに置いて

いたので、みんなで技術の面について言い合って改善できるようにしたし、オンとオフを大事にしました。

―試合の前など緊張する時はどのようにオンとオフを切り替えていましたか。

全てのことににおいてやねんけど、何かに緊張する場では、それまでに自分がどれだけ準備してきたかが全てやと思ってる。部活以外にも、今仕事するってなってる、銀行の業務は知識がないとお客様と話すことはできひんから、知識を自分でどれだけ入れてやるかっていうところに、やっぱ緊張するけど自信があればそこでは不安にはならへんから、準備が一〇〇%かなって思う。授業での発表も何をいうかどのように話すかを準備すれば、大丈夫かなって思う。

―当時アメフト部ではポジションはどこだったんですか？

僕はずっとディフェンスバックっていうところで、投げられたボールを取らせないようにディフェンスするポジションです。ディフェンステ、反応して動かないとあかんからオフフェンスに対して常に一歩遅れるんよ。だから、それについていくだけの身体能力も必要やし、それを補うための予測力とかっていうのが大事やったので、やらなあかんことをいっぱいやったのが大変でした。

―アメフトの試合で印象に残っている試合はありますか？

高校の時は一番最後の引退試合かな。関西学院っていう、立守とライバル関係にある学校やねんけど、そここの試合で、めっちゃ強かったけど、絶対に勝てるという自信が持てるほど準備してきたから、負けたけどすごいやりきったっていう、達成感がすごい試合でした。大学では去年大学四年生の時に日本一になって、日本一つて日本で一つのチームしかなれへんっていうこともあり、自分に自信がついた試合でした。まあそ

の自信は社会に出て通用しなかったけど。

―そうなんですか。自分ではつきりその自信を糧に社会に出ても頑張れると思っていました。

日本一つていうのは自分もすごいことやなって思うし、自信持っていないと思うねんけど、社会に出たら一年生だけで、赤ちゃんてひよっこやねん。そこでどれだけ歯を食いしばってやるかが大事やから。そこに自信は大事やけど、慢心みたいな必要ないって考えてる。地道に一步步ずつやなって、今は思っています。

―部活の時に特に楽しかったことってありましたか？

高校の時は毎日楽しくて毎日めっちゃめっちゃ楽しんでんけど、大学になると毎日しんどくて、楽しいって考える間もなく次の日走って行ってみたいなで、夜帰って寝ていう生活が週に六回あるんで、でも、オフの前の日とかに大学生の時はみんなでお酒を飲みに行ったりとかそんなんがすごい楽しかった。

―先生や先輩の言葉で印象に残っている言葉ってありますか？

押淵先生はマジで僕という人間を作り上げてくれた人やねんけど、今もふと振り返ると軸はその先生が言ってくれた言葉やったりする。一番印象に残っている言葉は「詰めが甘い」ってずっと言われてて、どこにいてもそうやねんけど、よく言われてた。「部活と私生活は一緒や」っていうこともそうやし。「全てにおいて一〇〇%やりきったといえるぐらい詰めきったと自信持って自分で言えへんときひんから。詰めきれ」っていうのは自分の言動の軸としてあるかな。単純やからもつといい言葉の方がいいかも知れへんけど、そういった単純な言葉が印象に残ってます。それに僕らの時は恐かったし。

―学校生活でここだけは譲れないっていうところはありましたか？

高三でキャプテンをやった時は、今はわからへんけど、授業態度が悪くて私生活が悪いっていう話をずっとされて、それ嫌やったから部活のルールとして第一ボタンまで閉めてネクタイをつけるっていうルールでやってた。そこからやりやすっていうのをずっと言ってる、たとえば、掃除とか。三年生で朝早く来て掃除とか練習以外のところにこだわろうっていうふうに言ってたし、そこは譲れへんかったかな。今考えると厳しすぎたかなっていうふうに思うけど。

—先ほどまでずっと高校の頃についてお話を聞いていたのですが中学の頃の思い出はありますか。

合唱コンクールとかかな。それがすごい面白かった。

—印象に残っている先生として辻先生や田辺先生を挙げられていますがどのようなお話をされましたか？

辻先生は高二の時に僕の担任で、めっちゃ可愛がってくれはって、去年、僕大学で練習しているときに先生の息子さんかな体験みたいな来てくれはって、学校卒業してからもちよく会うねんけど、めっちゃお世話になった。あの人全然生徒のことを否定しないから、やってみたらいいやんって言ってくれはって、可愛がってくれはった。田辺先生はさつきも言ってるけど文社探究で話すことになって、そこで見かねた僕に商工会の方に行ってみたら言ってくれて、そこから話すようになりました。行動力のすごい人よな。

—高校時代はどこかに遊びにいかれたんですか。

高校時代は遊びに行くというより、ご飯食べに行ってたかな。秀吉屋っていうラーメン屋さんに行ったりとかしてたかな。

*

探究活動について

—すごい抽象的な質問になってしまうのですが、商工会の方との一番の思い出はなんですか？

いろんなお店に連れてってもらって、守山銀座の美味しいお店とか連れて行ってもらった。このお店の記事書こうって思っ、こういう文章書きますっていうレイアウトを送って、それを形にもらって、(広報誌の)このページに載せますっ、ていうのが決まるみたいな思い出があります。僕ともう一人おってんけど、その人と一緒にやったって感じかな。守山銀座にある鶴屋吉正っていうお店やねんけど、文章を最初僕が作って手直ししてもらったというふうにやりました。商工会の人が優しく大変ではなかったんけど、一回出せばいいやっていうふうに言ってくれて、一回やってみてこうっ、ていうのを何回かやるっていう感じやった。

—探究活動を通じて自分のここが成長したなっていうふうに感じることをありますか？僕は最近大学の先生に、「答えという名のパイがあつて、それを取り合うみたいな世の中やけど、皆さんは、取り合う能力ではなく、新たなパイを作るような能力が付くよ」って言ってくださった。

僕もその通りやと思う。大前提として、自分で見つけ出してそれを作りださなアカンっていう世の中やから、そんな力が身についたんやと思う。自分から作るみたいな。誰かと競うみたいなじゃなくて、自分から一から作るっていう力も身についたし、やっぱそれも結局は大人の方に助けていただいたって感じかな。

—今自分自身が探究活動においてのゴールに行けたらどんな景色が広が

っているんやろうって思いながらやってるんですけど、広報誌が完成したときはどのような景色が広がっていましたか？

まあ、広報誌は手段の一つでしかなかったけど、目的は守山の市街地の活性化。「ここに立ち寄りたいな」って思ってもらいたいなっていう風に思ってたから、そこにつながっているかといわれたら難しいから。多分、京都新聞にもこれを載せていただいて、高校生が地元を盛り上げるといふふうに取り上げていただいて、守山の中心市街地の活性化につながれば。でも終わった時に感謝の言葉を言っていたりして、すごい嬉しかったかな。努力が報われたように感じたかな。

—お仕事をしている時に部活での学びであったり、文社探究での学びが生かされているように感じることはありますか。

さっきも言ったけど準備の部分かな。いつまでにこれをしなければいけないとか、何かこれをしたっていう時に、自分が今何をしないといけないのかちゃんとリストアップして、それを準備するところではアメフト部で学んだかな。

—仕事とプライベートのバランスはどのようにして保っていますか？

最近は飲みに行ったり、たまに旅行に行ったりしています。部活と勉強でやったら、やらなアカンことをスピーディに行えるようにどれだけ時間を費やすかやと思います。

—もし高校生時代に戻れるとしたら、どういったことをしてみたいかありますか？

もうちょいちゃんと勉強すればよかったなって思っています。別に成績が悪いっていうことはなかったけど。高校で学ぶことが一〇〇%活きるという訳ではないねんけど、でも土台を作る上で大事な意味をなしてるから、勉強はしておきたかった。でも、勉強以外やったら過去のまま

で十分な風に感じている。今は、勉強、まじ大事でもっとちゃんとやっとならばよかったなっていう風に思う。

*

部活動について

—自分の行動力や挑戦力が上がったように感じることはありましたか？

元々、物怖じしないタイプの性格やったから、なんでもやってみようっていう風に思ってた。高校では何かを与えてもらえるけど、やらなアカンこととか。でも大学やったら何もやらんくても四年間終わるし、挑戦しようって思わんくても終わるけど。ただ、アメフト部っていう挑戦しないといけないという場に身を置いてしまったから、大学もそうやし、周りの環境づくりかな。人間はすぐ楽な方に行ってしまうような弱い生き物やし、そういった挑戦する場に身を置くことが大事なかって思う。

—今現在の夢や目標を教えてください。

まず仕事を頑張りたいっていうのもそうやし、まだお客さんと接する機会って少ないねんけど、うちの会社の大事なこととして、地域の繁栄に奉仕するっていうことがあって、地域に対して何かやって、いうことに対して、それほんまにいいなっていう風に思ってる。それって壮大なことやと思うねんけど、それについていけるように自分も知識をつけていかなアカんから、とにかく今は挑戦と失敗を繰り返してやりたいなって思っています。

—少し僕の話になってしまうんですけど僕自身が強みを伸ばすっていう探究活動を行なっているんですけど、高校時代は自分の強みと弱みとどのように向き合っていましたか？

高校の時はアメフトにおいては考えてたけど、自分自身については考えていなくて、今になって思うのは、自分の強みも弱みもそこにフィットする。結局強みも弱みも他人から、第三者からの視点が入っているという風に考えていて、たとえばコミュニケーション能力が高いというのは結局他の人が判断することやん。メンタル弱いとかも。結局そこも自分のいいところ、強み弱みって自分が強みって感じていることも、他の人からもしかしたら、弱み、良くないところって思われているかもやん。お客さんと接する中で自分が強み弱みは他人に第三者にとってはすごい変わるなっていう風を感じてて、それを使い分ける力。僕はそれがいいか悪いかわからんけど、やっぱ人と接する上で使い分けて臨機応変にやるのが大切やと思うし、ただ自分の強み弱みを貫き通すことも大事かなって思う。難しいな。

—人と関わる上で何か心がけていることはなんですか？

謙虚かな。一回、会社で怒られたことやねんけど、常に学ぶ姿勢とか、一回聞いてみるって姿勢を謙虚にやることは大事かなって思ってます。謙虚な姿勢でい続けることが大切ですね。

*

挑戦について

—挑戦することについてどのように考えていますか？

挑戦することは、失敗とセットかなって思ってた、百回やってる挑戦のうち一回は成功することが成長じゃなくて、九十九回の失敗がマイナスっていわれたら、そういう訳でもなくて、失敗から何を学ぶのかっていうことやと思うから。挑戦はしなくても生きていけるけど、理想の自分になる上での手段でしかないから。そこに結果は転がってない。

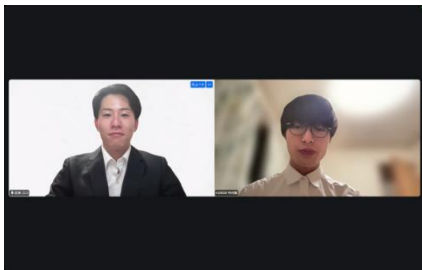
—最後に今の学生に対してこれだけは大切にしてほしいということはあるか？

りますか？

おっさんみたいなことやねんけど、学生って一番楽しい時期やから、時間がいっぱいあることが社会人になると羨ましいから、どこに何が転がっているかわからんからいろんなことに興味関心を持ってほしいなって思いますね。ある日突然学者になりたいって思う日が来るかもやし、これかっこいい、こんなになりたいって思えるものがあるかもやから、いろんなことに興味関心を持ってほしいなって思います。

【感想】

今回の聞き書きを通して、普段何気なく生活をしてた学校という一つの本の中に、このようなストーリーが広がっていたことを知り、大きな感動や気づきを得ました。これからは何かを成し遂げたり、何かにチャレンジをする時は、自分自身が胸を張って「一〇〇%の力を使ってやりきった」と言えるように日々の学校生活を送りたいと思います。



左：語り手 江口匠実さん
右：聞き手 今村 聡